

【追悼文】

旭川医科大学救急医学講座

郷 一知先生を偲ぶ

旭川医科大学 救急医学講座 藤田 智



略 歴

昭和28年11月11日生

昭和55年 北海道大学医学部卒業

昭和55年 北海道大学第二外科入局
市立札幌病院, 帯広厚生病院,
北海道大学で勤務

平成1年 アメリカ メイヨークリニック留学

平成3年 旭川医科大学第一外科講師

平成8年 旭川医科大学救急部 助教授

平成14年 旭川医科大学 救急医学講座 教授

平成22年1月29日 永眠される

平成20年に行われた、第43回日本高気圧環境・潜水医学会の会長であられた、当教室の郷一知教授が、本年1月29日大阪に出張中に急逝されました(行年58才、満56才)。学会の折には、楽しそうに皆様と歓談されていた郷先生のことを覚えていらっしゃる方も多いかと思えます。

郷教授は、心臓血管外科医として旭川医大に赴任後、救急医学講座の前進である救急部の助教授として旭川医大の救急の立ち上げに貢献されていたおかげで、その後、救急医学講座の教授となられてからは心臓血管外科医としての仕事だけではなく、旭川医大、道北圏の救急医療の整備に貢献されてきました。旭川医師会等と一緒に運動した結果、旭川にドクターヘリが配備されることとなりました。その結果、現在多くの命を救うためにドクターヘリが活用されています。さらに、ヘリコプターだけではなく、広い北海道にはドクタージェットが必要だと提唱されていましたが、今年8月には、ジェット機を使った広域搬送の研究を北海道医師会が中心となって行うことができるようになりました。これも、郷教授が熱心に運動されていたおかげだと考えています。また、旭川医大の救命センター化にも尽力され、今年中には救命救急センターとなる見通しが付きました。

高気圧酸素治療に関しても、多人数用(第二種)高気圧酸素治療装置を維持することは大学の使命であるとおっしゃってその維持に貢献されてきました。

残された、我々は、郷先生の遺志を継いで、北海道の救急医療に、また、高気圧酸素医療に引き続いて貢献していくことができればと考えておりますので、どうか皆様の温かいご支援をよろしくお願いします。